

2 浜松市の文化を取り巻く状況

2-1 前ビジョンの成果と課題

平成 21 年(2009 年)策定のビジョンにおいては 8 つの本市の特長と課題を整理し、それに対応する形で基本目標を定め、施策の方向性を決めました。この 8 つの特長に関しては本市がこれまでの取り組みのなかで築き上げてきたものであり、10 年を経過した現在においても引き続き本市の特長として挙げられるものです。

特長を生かし課題を解決するため、これまでの取り組みの成果と課題について、基本目標ごとに整理をします。

浜松市の特長	課題
進取の気質とものづくり文化の存在	若手アーティストたちのステップアップ機会の確保
産業の集積を背景とした都市ブランドの形成	創造的人材が集まり育つ環境整備、活躍機会の拡大
文化活動に関わる多数の市民の存在	活動団体の連携や中間支援組織強化、鑑賞者の拡大
都市資産としての音楽文化の蓄積	蓄積を活かした事業展開と一層の発信、音楽分野の起業家育成
広域な市域に点在する多彩な伝統文化	伝統芸能の情報収集、再評価、発信の事業展開。担い手の育成
豊かな自然の中で育まれた特色ある地域文化	特色ある地域文化の再評価と都市の魅力としての発信
異なる文化的背景を有する外国人市民の存在	文化を通じた交流の環境づくりと浜松独自の文化の醸成
文化振興に関する研究・教育セクターの存在	地域資産を活かした文化振興モデルの研究発信と人材育成

(1) 創造都市・浜松の実現

平成 24 年(2012 年)に『創造都市・浜松』推進のための基本方針」を策定し、本市の目指す姿のイメージを明確化するとともに、平成 26 年(2014 年)には浜松市文化振興財団³や静岡文化芸術大学⁴、浜松商工会議所など創造都市を推進する関係機関と「浜松市創造都市推進会議」を立ち上げました。同年 12 月にはユネスコ創造都市ネットワークに音楽分野で加盟し、創造都市を目指す国内外の都市との連携を深めました。

3 芸術文化の提供、交流、創造、発信を行うことや市民・地域の芸術文化活動の支援をとおして市民文化の振興、地域社会の活性化に資することを目的とする公益財団法人。平成 17 年(2005 年)にアクトシティ浜松運営財団と浜松市文化協会の統合により設立。

4 静岡県と浜松市、産業界による公設民営の新しい大学として平成 12 年(2000 年)4 月に開学。文化政策学部(国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科)とデザイン学部(デザイン学科)の 2 学部 4 学科と大学院(文化政策研究科、デザイン研究科)を置く。平成 22 年(2010 年)4 月から公立大学法人へ移行。

また、平成 25 年（2013 年）に創造的な文化芸術活動を行うアーティスト等の活動や交流の拠点となる鴨江アートセンターをオープンするとともに、平成 30 年（2018 年）には、浜松版アーツカウンシルとして「浜松アーツ&クリエイション」を浜松市文化振興財団内に立ち上げ、創造的、文化的な活動を支援するための環境整備を進めました。

前ビジョンでの主な取り組み

- ・ 鴨江アートセンター開館（H25 ～）
- ・ 「創造都市・浜松」推進のための基本方針（H24 ～）
- ・ ユネスコ創造都市ネットワークに音楽分野で加盟（H26 ～）
- ・ 世界創造都市フォーラム（H27）、世界音楽の祭典（H28）、サウンドデザインフェスティバル（H29）
- ・ 浜松市市民文化創造拠点施設構想（H29）
- ・ 浜松アーツ&クリエイションの設置（H30 ～）

創造的な文化芸術活動をするための支援制度や拠点整備、取り組みをけん引する関係機関との連携体制の構築など、創造都市の実現に向けた環境整備を着実に進めてきましたが、まちづくり・賑わいづくりを見据えた拠点の面的な広がりや、本市の文化芸術の魅力のPR、創造産業や文化関連産業の活性化などに向けては、より一層の取り組みが求められています。

(2) 文化の多様性が活力となる都市・浜松

市民の創造的な活動を促進するため、平成 24 年（2012 年）から助成事業「みんなのはままつ創造プロジェクト⁵」を立ち上げ、数多くの市民主体の創造的取り組みが具現化されるようになりました。取り組みを行う市民を中心に、「創造的な活動が新たな価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく」創造都市に対する意識が高まってきています。

伝統的文化の発信においては、平成 29 年（2017 年）に地域遺産センターを開設し、井伊直虎を取り上げた大河ドラマとの相乗効果により、改めて本市に根ざす歴史的資源を広く発信しました。また、地域の個性として大切に受け

5 創造都市・浜松の実現に向け、市民活動団体や民間企業等が発意・主導して実施する創造的な取り組みを応援する事業。スタートアップの資金を浜松市が補助するプロジェクトで、平成 24 年度（2012 年度）から平成 30 年度（2018 年度）まで実施。現在は創造都市推進事業補助金として創造都市・浜松の実現に向けたプロジェクトの立ち上げを支援している。

継がれている文化資源を掘り起こし、市民協働でその活用を進めるため、平成28年度（2016年度）から認定文化財制度として「浜松地域遺産」を新設し、平成30年度（2018年度）までに242件を認定しました。

前ビジョンでの主な取り組み

- ・みんなのはままつ創造プロジェクト（H24～）
- ・浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例（H27～）
- ・地域遺産センターの開館（H29～）
- ・浜松地域遺産（認定文化財）制度（H29～）
- ・浜松アーツ&クリエイションの設置（H30～）※再掲

各区の個性を生かした地域活性化や文化振興を図る「浜松市地域力向上事業」が実施されるなど文化の多様性を暮らしの豊かさにつなげるための取り組みが進められる一方、外国人や障がいのある人、高齢者なども含めた、誰もが文化に親しむための取り組みをより顕在化していくことが求められます。

(3) 音楽の都・浜松

平成30年度（2018年度）に節目となる第10回を迎えた「浜松国際ピアノコンクール」では、第1次予選からチケットが完売するなど、30年にわたる「音楽のまちづくり」に向けた取り組みが、着実に都市の資産として蓄積されています。

子供たちの豊かな感性を育むための「こども音楽鑑賞教室」を継続しつつ、新たに複合芸術であるミュージカルを鑑賞する事業を実施し、子供たちが質の高い音楽等に接することのできる機会を充実させました。

そのほかジュニアオーケストラ、ジュニアクワイア、アクトシティ音楽院⁶など、次代の音楽文化の担い手の育成に係る事業を継続するなど、「音楽の都」にふさわしい充実した取り組みを行いました。これら多くの取り組みを通じて、市民の誇り、アイデンティティとしての「音楽の都」の意識は高まってきました。

6 コミュニティコースとアカデミーコースの2つのコースから構成されている。コミュニティコースでは、市民の参加・体験型講座や聴講・学習型講座の開設、また、人材活用、楽譜貸出などを行い、アカデミーコースでは、世界レベルのアカデミーを開催し、演奏家の育成を行っている。

前ビジョンでの主な取り組み

- ・ジュニアオーケストラ、ジュニアクワイア
- ・こども音楽鑑賞教室
- ・アクトシティ音楽院
- ・浜松国際ピアノコンクール（H21、24、27、30）
- ・世界青少年音楽祭(H26)、こどもミュージカル(H22～24、H25～28)

これまで培ってきた音楽文化の蓄積を、重要な都市の資産として次世代につなぐために、「音楽の都・浜松」を象徴する事業の継続的な実施が求められるとともに、ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野の加盟都市として、音楽文化を都市の活力につなげる、新たな時代をけん引する取り組みを進めることが期待されています。



サウンドデザインフェスティバル



地域遺産センター



浜松国際ピアノコンクール



浜松地域遺産（久留米木の棚田・北区）